

社 会	<h2>記事から迫る地域社会</h2> <h3>～見て、聞いて、調べる社会学</h3>
-----	---

年	組	番	氏名
---	---	---	----

【取り組みのねらい】

新聞記事から生徒自身が興味を抱いた地域の事柄を、机上から離れて具体的に調べていく中で学ぶ楽しさをつかませたい。
 また、アポイントを取り、取材することで、社会と関わる力を養い、発見した事を発表する中で、表現する力も鍛えたい。

【進め方】

ステップ1 地域の特徴を知る

新聞記事から地域の事柄をスクラップし、新しいテーマを探る手掛かりとする。
 「時の人 トピックス 発見 発掘 発明など」

ステップ2 調査する

書籍 新聞データベース 資料を用い、深く追求し、5W1Hにまとめる。

ステップ3 深める

- ①フィールドワークへ行く
 現地への視察と聞き取り調査を行う。
- ②話を聞く会を開く
 身近な方を招聘し、お話を聞く。

ステップ4 VTRの視聴

関連する番組を視聴する。

ステップ5 まとめ・プレゼン・討論

調べたことをまとめ、発表し、討論で深める。

ステップ6 文化祭での展示・発表活動

壁新聞、4コマ漫画、詞と曲、劇・朗読劇・群読

終戦20日前 島田空襲



市民の会、学校巡回の夏
子供ら「心に残った」

模擬原爆の証言 朗読劇で後世に

島田市の中学生が、終戦20日前の島田空襲を題材にした朗読劇『模倣原爆の証言』を上演した。本州で初めて、模擬原爆の証言を題材にした朗読劇が上演された。島田市立中央中学校の生徒が、島田市市民の会と連携し、市内各中学校を巡回して上演した。この朗読劇は、島田市立中央中学校の生徒が、島田市市民の会と連携し、市内各中学校を巡回して上演した。この朗読劇は、島田市立中央中学校の生徒が、島田市市民の会と連携し、市内各中学校を巡回して上演した。

平成21年(2009年)7月10日(金曜日) 夕刊

新聞記事との“出会い”を活かす

かつて、私は一つの新聞記事と出会い、その後の教員人生を変えられた事がある。
 1991年6月25日静岡新聞朝刊の片隅の小さな記事である。「終戦直前、島田に1万ポンド爆弾 原爆投下訓練だった?」この記事がきっかけで「春日井の戦争を記録する会」と出会い、先生



方のご厚意でアメリカ軍第509混成軍団特殊作戦任務報告書を入手した。そして、その「空からの証言」から原爆投下の新たな事実が明らかになった。この爆弾は長崎に落とされた「プルトニウム原爆・ファットマン」と同じ形、同じ重量で、本物と見分けられるため黄色に着色されパンプキンと呼ばれていた。そして攻撃機は原爆を安全かつ正確に落とすため、島田を練習台としていたのである。

私たちは「地上の証言」の悲痛な叫びに対し、「空からの証言」の冷徹さに憤りを隠せなかった。勉強嫌いを自認していたはずの生徒たちは、絶対聞き捨てにはできないと日毎に変化を見せた。こうした聞き取りや調査活動は、その後4代に渡って続き、同じパンプキン爆弾が投下された焼津と浜松へのフィールドワーク、文化祭での『冊子』づくり、被災体験者を招いた講演会、爆弾の模型製作、本の出版、慰霊祭での平和の誓い宣言、生徒創作劇『聖戦の果てに』の上演と、高校生活が充実した日々となった。



さらに、2007年、島田朗読の会の人たちの手で島田空襲朗読劇『ムクの大木の下で』が作られ、縁あって劇に出演することになり、数年かけて島田市内全ての中学校で上演した。朗読劇の最後は「わたしゃあ人は憎みません。戦争を…憎みます・・・」と被災者の言葉で締めくくりますが、終盤、舞台上で演じていてもいつも涙が滲み出る。一枚の新聞記事は、私たちに思いがけない場をもたらしてくれた。

コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

- | | |
|---|---|
| <p>【学習の効果】
 自ら調べ、仲間と話し合う中で、新たな発見がある。さまざまな角度から疑問点を整理し解決していく姿勢が養われる。</p> | <p>【指導上の注意、課題】
 教室を離れ、フィールドワークやお話を聞く会を行う場合、時間や場所の確保、相手方の日程調整、交通手段、金銭的な条件などを考慮すべきである。</p> |
|---|---|